

## パネル討論

# 「国際基準と原子力規格の現状と課題について」

日立GEニュークリア・エナジー株式会社

守屋 公三明

2016年6月7日

# 1.国内規格は海外プロジェクトで活用できるか

規格が整備されている国(例えば米国)は、その国の規格を適用する方が合理的だとして、整備されていない国に対しては日本の規格を活用できるのか？

## □ 英語の壁

- 日本語を英語にするよりも英語の規格を利用する方が容易(ASMEなど)

## □ 国内規格を技術的に自信を持って適用できるか

- 国内規格の技術的な妥当性、考え方を説明する能力の不足
- 国内規格は欧米に比べて技術的根拠、データが脆弱(欧米的ではない)
- 国際的な議論や最新知見の反映が遅すぎる

## □ EPCの問題

- エンジニアリング、購入先は日本の規格を知らないため、日本の規格で発注することが困難
- 国内メーカーは海外規格への対応に課題

## 2. 今後の規格整備活動はどうあるべきか

海外プロジェクトへの活用という視点から、

- 規格の継続的な見直し活動(積極的な改定活動)
  - 実績のフィードバックと最新知見の早期取り込み(高い信頼性)
  - 海外規格との協調、取り込み(海外規格と同等以上)
  - 技術継承、技術力維持(改訂作業を通して技術力を維持)
  
- 根拠、データベースの強化と客観性の向上
  - 欧米で受容される根拠とデータベース
  - 客観的に理解できる論理と記述
  
- 海外での規格整備活動への積極的参加
  - IAEA、ASME他主要な規格整備活動への貢献
  - 国内規格への迅速なフィードバックと啓蒙活動
  - 英語版の作成

上記は、国内対応としても必要と認識